

発見!

# たからモノ ただみの文化遺産

第3回

## 刺し子 「サシコ」のちから



只見町でこれまで収集した民具約1万点のうち、2, 3 3 3点は国重要有形民俗文化財に指定されています。今回はその中から「サシコ」がほどこされている仕事着を紹介します。

### 布を丈夫にするための「サシコ」

「サシコ」とは、布を丈夫にするために、2、3枚の布を重ねて、線を描くように刺繍をしたものです。破損した部分に当て布をして、線の刺繍をしたものもあります。例えば「ジバン」(写真1)は、布を丈夫にするために2、3枚の布を重ね合わせた仕事着です。また、「サシコジュバン」(写真2)のように、破れた部分を小さな布で当て継ぎしたのも「サシコ」と呼ばれます。仕事着を最後までだいじに使った様子が見られます。仕事着にはさまざまな文様の布が当て布として使われました。そこには、素朴な美を見いだすことができます。「サシコ」は、何枚かの布を重ねているので、保温性が上がり、冬の仕事着として活躍しました。



▲写真1 「ジバン」



▲写真2 「サシコジュバン」

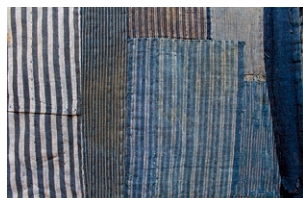


写真2の拡大写真

### 華やかな文様の「サシコ」

同じ「サシコジュバン」でも、建て前(上棟式)などの外での祝いごとで着るもの(写真3)には、白い木綿糸の「サシコ」で、縁起のよい麻の葉(茄子花)などの幾何学文様がほどこされています。「サシコ」文様は、特別な装いらしい華やかな印象をあたえます。「サシコ」文様の仕事着は、伊南川流域に特有で、南会津町では「南郷刺し子会」によって「サシコ」技術の復興と継承が行われています。



▲写真3 「サシコジュバン」

「サシコタビ」(写真4)は、ゼンマイ採りなどの山仕事の際に履いた足袋です。けが防止や防寒のために素足に着け、ワラジを履きました。側面には、「サシコ」によって山型の文様がほどこされています。文様を全面に刺すことによって布を丈夫にするのと同時に、華やかで力強い印象をあたえています。



▲写真4 「サシコタビ」

民具とは、人々が生活の中で作り出した道具のことです。今回取り上げたどの「サシコ」も、さまざまな用途に合わせてそれぞれの家で作られました。丈夫にするという実用性と、華やかな装飾性が共存する民具ならではの面白さがあります。

文・写真：原永円香



### ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示予告



第2回企画展「生誕百年 皆川雅舟展 只見が生んだ渾朴の書人」

会期：2023年7月11日(火)～2023年10月9日(月・祝)

場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール

入館無料